

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年2月10日		～ 2025年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月10日		～ 2025年2月21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4施設	(回答数) 4施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・2名体制で実施しています。複数の視点で子どもの観察ができていたり、話し合いができています。	・訪問前に担当施設の職員同士で検討表の内容や支援内容について共有し、訪問後は、振り返りを行ない意見を出し合っ、よりよい支援につなげるようにしている。	・担当施設の職員同士では話し合いができていますが、訪問支援員全体でも支援内容について話ができる機会をつくる。 ・職種や経験に応じた研修や訪問支援に特化した研修に参加し、専門性を高めていく。
2	・訪問支援内容を記録し、保護者の方と共有できるようにしている。	・訪問時の対象児の様子やカンファレンスで話した内容(行動の意味付けや今後の取り組みなど)を文章にしている。保護者の方に記録を渡すことで、家族間でも共有しやすい。 ・訪問先にも記録を渡すことで、伝えたいことを正確に届けることや見返すことができる。また、3者が共通理解できる。	・引き続き、丁寧に分かりやすく文章にし、保護者、訪問先と共有できるようにしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者との面談の機会が少ない。	・訪問後に訪問支援内容の記録を行ない、保護者の方と共有しているが報告のみになってる。 ・担当職員が通所支援事業と兼任をしているため、時間の調整が難しい。	・年に3回程度、面談の機会を設ける。 ・悩みや困りごとがあるときには、面談の時間を設けることを保護者に周知する。
2	・訪問支援の日程調整が難しい。	・担当職員が通所支援事業と兼任をしている。行事等を考慮すると訪問日が限られる、また、訪問先の行事や職員体制などで調整がしにくい。	・訪問先の負担にならないように、できる限り調整をおこなう。午前中に観察とカンファレンスを行なっているが、時間を分散して実施するなど工夫していく。
3			